

第4回「あさひぼし子どもの水辺協議会」が去る9月21日（金）、「川のおもしろ館」の2階研修室において開催されました。

主な意見交換

意見交換では、魅力ある川づくり、拠点施設の多様な利用、地域協働など、様々なテーマで意見が交わされました。



座長を務める山形氏

あさひぼし周辺の景観および水辺環境について

●現在、開発局では金星橋下流右岸の環境整備を下図のようなイメージで河川の自由広場の整備を考えております。基盤整備を今後2カ年でを行い、上物施設は旭川市で行うことになっております。



河川自由広場のイメージ①



河川自由広場のイメージ②

- 現状では木がうっそうとしているので、ある程度の間引き・伐採を考えております。ヤナギなどは寿命が20年程度なので、100年以上生きる樹木に植え替えようと考えております。
- 樹木をあまり多く伐採するのは、環境保護の面から反対意見などはないのでしょうか。
- 実際に伐採に対する反対意見もありますが、流下能力上の問題のある樹木は伐採すること

になります。

また、昨年の委員の意見にもありましたが、子どもの防犯上からも問題があります。

- ただし、樹齢の長い木や、大町小学校前の木など、地元の方々に思い入れのある木はできるだけ残すようにしたいと思います。
- 子どもが気軽に遊べる環境にしてもらいたいです。芝がはがれるからなど、維持管理上の理由で自由に遊べないような環境では、逆に子どもの遊ぶ場所を奪ってしまいます。
- 子どもが歩いて川の中に入れるような、遠浅の水辺環境を作りたいのですが、河川は水量の増減もありますし、なかなか難しいのが現状です。

川のおもしろ館の施設利用について

- 川のおもしろ館を利用した取組みを今年度も実施しましたが、他にににか子どもの教育活動等がありましたら、ご意見ください。
- 川のおもしろ館は、いろいろな展示物があって面白いと思います。ただ、一年を通して川のおもしろ館で子どもの教育活動などが開催されて、それを子どもたちが楽しみに何度もおもしろ館に足を運んでくれるようになればいいと思います。
- 市内には退職した先生など、子どもの教育の専門家がたくさんいますので、連携をしたら良いと思います。
- 川の危険や楽しさなどを実体験で教え、子どもの興味を引き出せるものがよいですね。
- アイヌと川とのつながりをもとにイベントや講座を開くと面白いと思います。

道民カレッジでは、そのような知識のある学士・修士・博士を認証しています。市内にも博士はたくさんいるので、うまく活用できればよいと思います。また、子どもだけでなく、大人も興味のある分野ですから、大人が集まることも期待できます。

- 鮭の放流も良いと思います。現在、小学校でもやりたいと考えているのですが、学校では負担も大きく、大変です。川のおもしろ館でできればいいですね。
- ぴかぴか泥ダンゴというものが、全国的に流行しています。泥をダンゴにして磨いていくのですが、磨けば泥ダンゴの光度が増し、泥の種類によっても色が異なりますし、できた泥ダンゴにまた泥をくっつけたり、大きくしていったりと、大人も夢中になるほど面白いです。

地元小学校の総合学習支援について

- 現在小学校での総合学習は、インターネットを使って調べ物をする事が多く、せっかくこんなに川に近い学校であるのだから、ぜひ

川での活動を総合学習に取り入れたいと考えています。

- 学校側としては、やはり安全上、子どもが簡単に足を入れられて歩ける、遠浅の水辺があるとやりやすいですね。
- 以前、川のおもしろ館で教えていただいた水生生物調査を総合学習に取り入れてみました。子どもたちは大喜びで、終わりの指示を出してもやめようとしないうちもいるほど熱中していました。おかげさまで子どもたちに貴重な体験をさせることができました。今後も実施したいと考えております。
- 旭橋周辺の流域でも、投網を一度投げただけで、たくさんの魚や生物を捕まえることができます。その捕まえた生物を小学校の池で飼って、観察させることも良いと思います。



旭川市立日章小学校の岡部校長



北海道ウォーキング協会の藤田氏



旭川河川事務所の京田課長



(財)旭川河川環境整備財団の庄司専務理事



水辺環境や施設利用、地元小学校の総合学習支援について、様々な意見が交わされました。



旭橋～金星橋の左岸の水辺環境を視察しました。